

# ピッツバーグ

## 補習授業校



ポイント州立公園とピッツバーグのダウンタウンを望む



借用校舎外観



### Pittsburgh Japanese School

URL <https://www.pittsburghjapaneseschool.org>  
児童生徒数 幼=23人 小=70人 中=14人 高=7人

## 鉄鋼の街から住みよいハイテクの街へ

ピッツバーグは、ペンシルベニア州南西に位置する州内二番目の都市である。七郡にまたがる都市圏の人口は二三六万人。アラチア山脈を流れる二つの川の合流点にダウンタウンが位置していて、四季折々に美しい風景が楽しめる。

かつては鉄鋼の街として知られたが、現在は都市再生計画によりIT、ロボット工学、ライフサイエンス、ヘルスケア、バイオテクノロジー、化学、エネルギー等、科学分野の産業や高等研究機関が発達し、経済成長著しい都市として注目されている。治安、物価、教育など住みやすさの面でも人気があり、たびたび「全米で最も住みやすい街」の第一位に輝いている。文化やスポーツの面でも充実した小さな大都市である。

## 現地の教育環境

本校に通う子どもたちは、平日は現地校、日曜日に本校に通っている。

アメリカの教育制度や教育内容は州、郡、学校区によって異なるが、当地では義務教育は高校までとなっていて、公立校の場合、五・三・四年制をとっている学校が多数である。五歳児は学区の小学校に併設された幼稚園に通う

のが一般的である。

また、特色ある私立校への入学を選択することもできる。現地校にはPSSAなどの援助制度があるのが一般的で、英語を母語としない子どもを受け入れる体制が整っている。またどの学校にもカウンセラーが配置されていて、学校への適応についても親身になって相談に乗ってくれる。

なお、三年生から八年生を対象にPSSA (Pennsylvania System of School Assessment)、高校生を対象にKeystone Examsと呼ばれる州の統一テストが実施され、教育課程の改善などに活用されている。

幼児段階の教育では、保育園、託児所な



創立40周年記念に桜の木を植樹

どの施設が各地にあり、自由に選ぶことが  
できる。

## 「コミュニティーの熱い思い に支えられて



伝承遊び体験



図書室



文化交流 書道体験



中学校1年 社会



幼稚部 お店屋さんごっこ



小学校6年 算数「秒速」

**子どもたちから**

日本語で話せて勉強が分かりやす  
い。(小4)

みんなと笑顔で  
勉強するところが女子生  
(小6)

授業はひとコマ四十五分の五時間で、国  
のために滞在している医師、国際結婚した  
人を含む長期滞在者の三者でほぼ均等に構  
成されている。IT関連に強い保護者も多  
く、時代の先端を行くテクノロジー環境の  
構築において恵まれた環境であると自負し  
ている。

本校の保護者は企業からの赴任者、研究  
のために滞在している医師、国際結婚した  
人を含む長期滞在者の三者でほぼ均等に構  
成されている。IT関連に強い保護者も多  
く、時代の先端を行くテクノロジー環境の  
構築において恵まれた環境であると自負し  
ている。

Middle School (SSA) を授業日だけ借用  
してくる。校舎はもともと個人邸宅として  
つくられた豪華な建物で、当時のままの瀟  
洒な装飾がいまもとじこじこに残り、本  
校を訪れる人を喜ばせている。

本校は現地校であるShady Side Academy  
としている。校舎はもともと個人邸宅として  
つくられた豪華な建物で、当時のままの瀟  
洒な装飾がいまもとじこじこに残り、本  
校を訪れる人を喜ばせている。

本校ではまた日本文化の伝承にも力を入  
れていて、新年には全校園児・児童・生徒  
が書き初めを行い、幼稚部では七夕、お正  
月遊び、節分といった日本の伝統文化を樂  
しんでいる。加えて保護者によるボランティ  
アで現地校の子どもたちにも文化交流と  
して毎年書道を教えている。また古本市、  
食品市などのイベントには外部からの参加  
者も受け入れ、コミュニティーの一員とし  
ての役割も担っている。コミュニティーか  
らの期待は高い。

語と算数(数学)を教えている。二〇一八  
年度より三学期制から前後期制に変更した。  
ために、年間授業日数が三十六日と非常に  
少ないにもかかわらず、運動会、朝会の発  
表、授業参観(年二回)、学級懇談会(年二  
回)、入学式・卒業式をきちんと行っている。

月に記念として借用校と共に敷地内に桜の  
木を植樹した。桜は次の年の  
四月、見事に花を咲かせた。  
近年、企業からの派遣期間が  
短くなり一年間だけという例  
も増えてきているが、短い期  
間でも桜のように花を咲かせ、  
充実した補習校生活にして子  
どもたちを送り出すのがいま  
の私たちの課題であり使命で  
あると考えている。

(二〇一九年十一月現在)